

平成29年3月5日

## 明海大 歯科総合医育成コース資格称号授与式 關勇樹氏ら4名に資格称号

2016年度明海大学総合医育成コースの資格称号授与式が3月3日、東京都新宿区の明海大学・朝日大学歯科医師生涯研修センターで開催され、

明海大学歯学部部長の中島裕齒科総合医評価機構長から、關勇樹（長野県開業）、佐野潤（東京都開業）、玉置佳嵩（明海大学大学院）、笠木星児（東京都勤務）、以上の4氏に資格称号が授与された。

中島機構長は「この度の2名を含めエクセレントクリニシヤンの認定者は7名となった。国民と密着して歯科医療を提供するのが、本コースが目指す歯科総合医の役割である。これがゴールではなく、さらにレベルアップを図ることを期待する」と述べた。単位認定委員会の鈴木尚委員長が審査の経緯について説明



上濱正副委員長



資格称号受賞者と研修センター関係者

格を取得し後進の指導にあたっていく。臨床医としてだけでなく教育者として、さらに世界に向けて日本の歯科医療の伝道者となっていたたこと

を期待する。「2030年から歯科医師国家試験が大きく変わり、歯科医師も医師としての役割が強く求められることにな

る。生涯にわたって国民の健康に寄与するのが歯科医療である。従来の補綴・保存といった縦割りの医療ではなく、生涯を通じた横割りの医療をもつて地域で活躍して

いただきたい」旨を述べた。質疑の中で、上濱氏は日歯が検討している高齢

社会に対応する歯科総合医との違いについて「国民に生涯にわたって寄与する歯科総合医という観点から言えば、高齢化だけでなく少子化も視野に入れる必要がある。制度論のみの摂食・嚥下等への対応だけでは国民の納得できる医療は提供でき

ない。歯科医師だけでなく歯科衛生士・歯科技工士とともに、国民目線での健康に寄与するのが歯科医療のあり方を広げ意味で考える必要がある」との考えを示した。

「歯科医師はなぜ学び続けなければならぬか」という質問に対し、認定医審査委員の赤石健司氏は「一番大切なことは、人間は常に学び続けなければならない」ということである。特に、医療に携わる人間は常に切磋琢磨しなければ、その職についていけないと考えている。寄り添う医療とは、医療者からではなく患者さんから見えた医療である。患者さんの立場に立った抱負を語った。

医療を学んでいくには、自らの人間性社会科学、自然科学など、全てを生涯にわたって学び続けなければ、一人前の医療者にはならないと思つてい